

個別事業説明書【PR版】

東予地方局



1 いちご新技術導入促進事業費(東予)

本県野菜のうち産出額1位のいちごの主産地である東予地区において、栽培技術の向上に意欲的な農家を中心にオランダの最先端生産技術・経営論を導入し、単収向上による儲かる農業の実現を図る。

お問い合わせ先
東予地方局農林水産振興部
農業振興課産地戦略推進室
(0898-68-6812)

指標	施策	17 農林水産業の生産振興	現状値	1,232億円 (R4年)
	KGI	農業産出額	目標値	1,200億円 (R8年)
指標	細施策	17-4 農業の生産振興	現状値	329千t (R5年度)
	KGI	主な農産物の生産量(各振興計画に記載のある主要品目)	目標値	338千t (R8年度)

事業イメージ KPI 取組農家の平均単収(事業開始4年後に6.5t/10aを達成可能なR7年度目標値を設定)

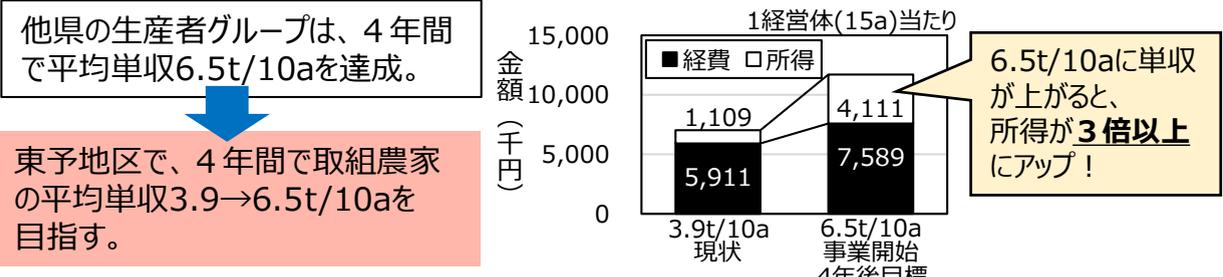
現状値	3.9t/10a (R4年度)
目標値	4.6t/10a (R8年度)

現状 ○いちごは本県野菜の中で産出額1位で、**東予地区が主産地**だが、高齢化等により栽培面積、農家数ともに減少。
○R5年度から若手農家を中心に14回/年の勉強会を開催し、**県内で最も栽培技術の習得に意欲的なグループを育成。**



課題 ○コストが高騰する中で、**収入が伸び悩み所得が減少。**
○資材価格の高騰により面積拡大は容易ではないため、**単収アップ**を図る必要がある。

対策 ○「オランダ式生産技術」の導入により、**大幅な単収向上を実現。**



オランダ式生産技術とは オランダは世界一の施設園芸大国

- ・光合成が最大で**2倍以上**アップ。
- ・開花周期が**10%加速**・**病気の発生が激減。**

○R4年度までに**主産県等16県が同技術を導入**しているが、**本県では本格導入されていない。**
※オランダと本県は気候等異なるが、栽培環境に合わせて植物をコントロールする理論は同じ。

● オランダ ○ 日本

事業概要

1 オランダ式生産技術セミナーの開催 2,012千円

対象者：管内全てのいちご農家約60人
オランダに本社を置く世界最大の農業コンサルタント企業の日本法人から専門家を招き、セミナーを開催。

①土耕栽培コース(7講座) ②高設栽培コース(8講座)

セミナー内容

- 経営
- 施設
- 栽培理論

・費用対効果に優れた経営発展理論
・光利用効率を高める施設設計
・いちごの持つポテンシャルを最大限引き出す栽培管理 等

R10年産に単収6.5t/10aを目指す

2 現地フォローアップ研修会の開催 23千円

オランダ式生産技術がスムーズに農家に移転されるよう、いちごの生育変化が比較できる2週間毎に**普及指導員が現地研修会を開催**し、農家の実践状況の把握・共有やアドバイスを行う。

3 マニュアルの作成・配布 105千円

東予地区の気候や栽培方法に即したオランダ式生産技術マニュアルを作成。

4 実績報告会の開催 136千円

東予管内及び県内への波及を図る。

※事業期間中に同技術を普及指導員が習得し、事業終了後は普及指導員が引き続き指導を行う。



2 しまなみ地域観光客滞在促進事業費（東予）

しまなみ地域は一定数の観光客が訪れているものの、宿泊者数や滞在日数は近隣地域（松山市や尾道市）に比べて少なく、日帰りで通過する傾向が強い。本事業では、「SHIMANAMIの酒」を軸に観光コンテンツを造成するとともに、地元宿泊施設や飲食店と連携を図りながら宿泊・飲食プラン等を提供し、観光客の滞在期間の延長と地域の魅力向上を図る。

お問い合わせ先
東予地方局今治支局
総務県民室
(0898-32-3732)

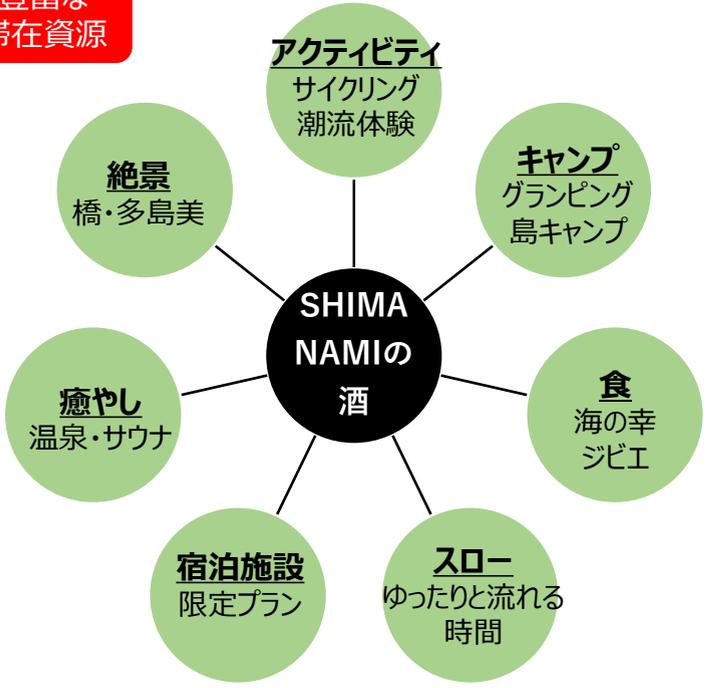
指標	施策	20 本県ならではの魅力ある観光まちづくりの推進 KGI ①日本人延べ宿泊者数②日本人旅行消費単価	現状値	①4,490千人 ②35千円(R5年)
	細施策	20-1 観光基盤の整備と誘客促進 KGI 国内観光客数	現状値	22,782千人 (R5年度)
			目標値	①4,900千人 ②29千円(R8年)
			目標値	28,000千人 (R8年度)

事業イメージ

KPI 酒を軸とした観光コンテンツ造成数
(年間5～8本の造成を目指す) 現状値 - 目標値 20本 (R7～9年度累計)

課題 観光客の宿泊・滞在期間を延長させる魅力的なコンテンツ・商品づくり

豊富な滞在資源



目指す姿

しまなみ地域の豊富な滞在資源を、お酒をKEYに結びつけ、観光客に地域の魅力をより深く体験してもらうことで、宿泊者数の増加や滞在延長を促進する。

地域との連動

・日本酒・ワイン・リキュール・ビールの酒蔵・工場、地元のお酒を提供する飲食店や宿泊施設が点在している。
・お酒をテーマとした地域イベント等が開催されている。
→地域事業者との連携により地域内の周遊促進を図る。

スケジュール

令和7年度（事業概要1～3の実施）

令和8年度～9年度

検討会・コンセプト設定 → コンテンツ造成 → ファムツアー実施 → 商品造成・販売強化 → 自走化

事業概要

1 「SHIMANAMIの酒」おもてなし検討会の設置 150千円（県 75千円）

- 構成団体（案）
酒類製造者（日本酒、ワイン、クラフトビール、リキュール等）
コンテンツ事業者（果樹収穫体験、ものづくり、リラクゼーション等）
県今治支局、今治市、上島町、DMO 等
（オブザーバー：旅館ホテル同業組合、料飲組合、商工会議所、商工会、農協）
- 内容 ブランドコンセプト・ターゲット設定、受入機運醸成、協力体制整備

2 「SHIMANAMIの酒」観光コンテンツの造成 542千円（県271千円）

- コンテンツ造成に向けた現状調査・課題抽出
- 観光アドバイザーによる助言
- 体験コンテンツ（酒蔵・工場見学・試飲ツアー等）の企画・造成

3 「SHIMANAMIの酒」ファムツアーの実施 2,458千円（県1,229千円）

- 対象：県内外の旅行会社、メディア関係者等
- 内容：造成した体験コンテンツを巡るファムツアーの実施
- 目的：認知度拡大とともに、参加者の意見を基にコンテンツを更に磨き上げ

【実施主体】瀬戸内しまなみ海道活性化実行委員会

事業経費 3,150千円（うち委託料3,000千円、事務経費150千円） 県負担額 1,575千円

- 実施方法：委託事業
- 連携先：今治市、上島町、酒類製造者及び販売業者、宿泊事業者、飲食店、観光協会等